

ブリツェン最高の滑り出し



念願の表彰台の真ん中で、万感が胸に迫った。宇都宮ブリツェン2年目の岡篤志がプロ初優勝。「やっと勝てた。チーム力が勝たせてもらった。南の島でつかんだ勝利をかみしめた。

序盤は数人の逃げを容認しながら集団のまま進み、中盤からブリツェンが集団先頭を固めてコントロール。



初Vの岡 挫折経て「真ん中」に

高校時代にJPTデビュー。若くして欧州レースも経験したが、突然のスランプに苦しみ、一時は自転車から離れた。エリートツアーにカテゴリーを落とし、再びペダルをこぎ、2016年に年間個人総合優勝。昨年、ブリツェンでJPT復帰を果たした。

即戦力を期待された1年目は「攻めすぎて冷静な判断を欠いた。自ら頂点を手放したレースは一つではなく、チームに勝利をもたらした同世代の小野寺、雨沢毅明の活躍がまぶしくて、悔しかった。

今オフに練習量を増やし、コンディション万全の状態を臨んだ開幕戦だった。苦節を経て、初めて勝利の味を知った。「やっとスタート地点に立てた。少なくとも勝はしたい」。22歳の物語は始まったばかりだ。

(三谷千春)

岡 開幕ワニツェン ファイニッシュ 小野寺

自転車
JPT 第1戦
自転車ロードレースの
Jプロツアー（JPT）
開幕戦「おきなわロード

レースDay1は24も2位に入り、ワニツェンが前方を固めてレースをコントロール。ペースを上げながら終盤まで主導権を離さず、鈴木龍、小野寺もゴールスプリントで意地を見せた。

那須ライオンは新加入の樋口肇明の8位ホリ、2位の伊藤杏葉と、ともにワニツェンにシムを果した。

第2戦は25日、同コースで「おきなわロードレースDay2」を行つた。12周、50.4キロで行い、宇都宮ブリツェンの岡篤志が初優勝、小野寺玲、鈴木龍が初優勝、小野寺玲、み、中盤からブリツェンが前方を固めてレースをコントロール。ペースを上げながら終盤まで主導権を離さず、鈴木龍、小野寺もゴールスプリントで意地を見せた。

第2戦は25日、同コースで「おきなわロードレースDay2」を行つた。12周、50.4キロで行い、宇都宮ブリツェンの岡篤志が初優勝、小野寺玲、鈴木龍が初優勝、小野寺玲、み、中盤からブリツェンが前方を固めてレースをコントロール。ペースを上げながら終盤まで主導権を離さず、鈴木龍、小野寺もゴールスプリントで意地を見せた。

- ① 1時間14分59秒の鈴木龍
- ② 1時間15分31秒の増田成幸
- ③ 1時間15分47秒の藤原行
- ④ 1時間16分05秒の平塚亮
- ⑤ 1時間16分23秒の鈴木龍
- ⑥ 1時間16分31秒の伊藤杏葉
- ⑦ 1時間16分39秒の鈴木龍
- ⑧ 1時間16分47秒の鈴木龍
- ⑨ 1時間16分55秒の鈴木龍
- ⑩ 1時間17分03秒の鈴木龍
- ⑪ 1時間17分11秒の鈴木龍
- ⑫ 1時間17分19秒の鈴木龍
- ⑬ 1時間17分27秒の鈴木龍
- ⑭ 1時間17分35秒の鈴木龍
- ⑮ 1時間17分43秒の鈴木龍
- ⑯ 1時間17分51秒の鈴木龍
- ⑰ 1時間17分59秒の鈴木龍
- ⑱ 1時間18分07秒の鈴木龍
- ⑲ 1時間18分15秒の鈴木龍
- ⑳ 1時間18分23秒の鈴木龍
- ㉑ 1時間18分31秒の鈴木龍
- ㉒ 1時間18分39秒の鈴木龍
- ㉓ 1時間18分47秒の鈴木龍
- ㉔ 1時間18分55秒の鈴木龍
- ㉕ 1時間19分03秒の鈴木龍
- ㉖ 1時間19分11秒の鈴木龍
- ㉗ 1時間19分19秒の鈴木龍
- ㉘ 1時間19分27秒の鈴木龍
- ㉙ 1時間19分35秒の鈴木龍
- ㉚ 1時間19分43秒の鈴木龍
- ㉛ 1時間19分51秒の鈴木龍
- ㉜ 1時間19分59秒の鈴木龍
- ㉝ 1時間20分07秒の鈴木龍
- ㉞ 1時間20分15秒の鈴木龍
- ㉟ 1時間20分23秒の鈴木龍
- ㊱ 1時間20分31秒の鈴木龍
- ㊲ 1時間20分39秒の鈴木龍
- ㊳ 1時間20分47秒の鈴木龍
- ㊴ 1時間20分55秒の鈴木龍
- ㊵ 1時間21分03秒の鈴木龍
- ㊶ 1時間21分11秒の鈴木龍
- ㊷ 1時間21分19秒の鈴木龍
- ㊸ 1時間21分27秒の鈴木龍
- ㊹ 1時間21分35秒の鈴木龍
- ㊺ 1時間21分43秒の鈴木龍
- ㊻ 1時間21分51秒の鈴木龍
- ㊼ 1時間21分59秒の鈴木龍
- ㊽ 1時間22分07秒の鈴木龍
- ㊾ 1時間22分15秒の鈴木龍
- ㊿ 1時間22分23秒の鈴木龍

結果した2位小野寺玲。アシスト役を全うした。でも誇らしい結果だと思ふ。プランでは鈴木龍、結果的には岡の発射台として仕事を完遂し、最終盤はスプリンターとしての意地を見せた。

集団前方を固めたチームの後方で岡、鈴木龍とともに最終局面を託された。「誰か勝負するのだから、誰か勝たせなから走った」と、残り400メートルから岡を背負って発射し、快挙につなげた。

日本代表メンバーとして出場したアジア選手権から10日余り。「世界と戦う意識が高まった」と。

語る言葉も一層たくましくなった22歳が、今季もレースを盛り上げる。